
想い

葉隠むつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

想い

【Nコード】

N0549E

【作者名】

葉隠むつ

【あらすじ】

「あんたが、好きだよ」って、言っちゃった。

「あんたが、好きだよ」

緊張も飾り気も初々しさも照れくささもないように、そんなのが微塵も表に出な

いように。自分との戦いを制してあっさりとその言葉を口にできたから、私はほ

んの少しだけ安心した。

髪を耳にかけながらあいつを振り返る。

あんまり予想通りの顔してるから、何だか切なくなってしまうて空を見上げた。

満開を少し過ぎたばかりの桜が、早くも役目交代とばかりに数枚宙を舞っている。

ああ、桜は散る時、たった一枚きりの花びらだとこんなにもたよりないんだと、

ぼんやり思う。

肩に引っ掛かった薄桃色のそれをつまんで、そつと手のひらの上にのせた。

私もあんたと同じよ。

私も、タイミングを間違えた。

私の想いを告げるチャンスは、一生来ないはずだったのに。

来てはいけなかったのに。

何を血迷ったか、熱病にかかったもう一人の私は、別れが怖くて封印したはずの

気持ちの口にしちゃったんだ。

「な、なあ……」

私は再びあいつを振り返った。そういえば、私の決定的な一言の後、何にもしゃ

べってなかったんだ、と、意外に思う。

私は勝手に時間がだいぶ経過してたと思い込んでたみたいだ。さて、私も言わなくちゃ。

後には、これしか残されてないから。

「お前、今確かに……………」

「あははっ。何か勢いで言っちゃったよ！」

私はあいつに一言もしゃべってほしくなくて、言おうと思ってたことや頭に思い

浮かんだことを片っ端から口にしていった。

「こうなったら言っちゃうけど、実はさあ、あんたが私の初恋なのよ。初恋を小

学校から高校卒業までずっと守り続けてきたわけ。何か自分でもありえないと思

うんだけど、まあおこったものはしょうがないよね！参ったなあ。

今までずっと

我慢してきたのに、私……………私、最後の最後で我慢できなかったよ。大学、遠

くへ行っちゃうもんね。しばらく会えなくなるって考えたら、いてもたってもい

られなくなっで、つい……………」

桜に花粉はあるのは当たり前だ。ということは、私が今泣いてるのは桜の花粉の

せいなんだ。きっとそうだ。それ以外に何の理由があるんだろう。

私は桜のせいで泣いたんだ。

別れの季節が切なくて泣いたんだ。

絶対、まかり間違っても、失恋した痛みだとか、こいつに嫌われたって痛感して

るからとか、そんなちやちなことじゃないんだ。

ああ、もう言うことは言っだし、とっとと逃げないと。

「待てよ」

突然、後ろから抱きすくめられて、身動きがとれなくなる。

背中と耳元に、それぞれ体温と息遣いを感じた。

そうだ。こいつは昔からこうやって変に気を使う癖があったから、今だっていつ

ものように接してくれてるんだ。

なんて、ムカつくくらい憎たらしいんだろ。

今、私の胸の中で、正反対の二つの色がせめぎあってる。

これ以上くっついてるのが怖くなったとき。

「俺だって、長い間初恋を大事にしてきたから、そこはお前と同じだよ」

よく聞き慣れた声なのに、夢の中の幻かと思った。

でも、この声は紛れもないあいつの声だった。

私の耳元で、確実に発される音。

嫌いだけど完全には嫌いになれないあいつの声。

幼馴染みの声。

この瞬間、もう何もいらないうって思った。

それは、たったひとつのものを手に入れることができたから。

（後書き）

とっても短いお話を（いきおいで）書いてみました。

オチがほとんどないようなもの、というよりか弱すぎますが、こういうベタな終わり方にはこれでいいのかなあと思います。これから
も精進したいです。

読んで下さった方、本当にありがとうございました。

私の作品は未熟すぎますが、それでも読んでいただけたのなら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0549e/>

想い

2010年12月30日04時16分発行